

WPFから8月の原水爆禁止世界大会へ 2006年世界大会成功めざす「行動月間」ニュース

発行:原水爆禁止日本協議会

電話03 5842 6031

FAX03 5842 6033

URL <http://www10.plala.or.jp/antiatom/>

Eメール antiatom55@hotmail.com

【2006年6月30日 NO.8】

昨年比4倍の学習パンフを注文 愛知

折鶴大作戦も実施

愛知 愛知民医連傘下の南医療生協は6月27日、第1回実行委員会を開き、「2006年原水爆禁止世界大会 南医療生協代表団(参加要綱)第1次案」を確認しました。今後の主な取組みとして、10万羽折鶴大作戦(事業所の窓口、病棟、デイケア、地域などで折ってもらえる人をつくる。近日中に折鶴回収BOX設置予定) 若手職員を中心に平和の横断幕を作成(巨大横断幕に10万羽折鶴大作戦で集めた折鶴を貼り付けて文字を作り、メッセージを刻む) ニュース『原水ピー』(平和にちなんだ「ピーちゃり隊」「ピーぱふお隊」に続いて命名)作成 学習を中心に据えようと、世界大会学習パンフレットを昨年比4倍の200冊注文。同数の世界大会バッジ、ちひろバッジ500個を活用して一緒に広げる 参加者を中心に、7月6日、19日、29日の署名行動や事前のとりにくみに参加をしていくことを重視。事業所での署名活動、参加壮行会・大会報告会にとりにくむ 秋の平和企画から3・1ピキニ、平和行進と、年間を通した活動につなげていくなどが挙げられています。

また、南医療生協の一翼を担う「かなめ病院」では、新入職員を中心に4名の参加を決定。この機会に全職員が原水爆禁止世界大会の意義や、今の運動の課題などを学ぶことが大切と考え、院内のプロジェクトチームで学習会を計画しています。

すっきり、弾みついた

千葉 船橋原水協は6

月28日、総会の前に学習会を行い、『原水協通信』編集長の前川史郎氏が「核兵器廃絶の世界の流れと原水爆禁止2006年世界大会の意義」と題して講演しました。感想交流では、教組から「昨年長崎に青年が



行ってとても感動した。雰囲気を感じると同時に、質の高い分科会に参加して確信がわくと今年は4人で行こうと張り切っている」と発言がありました。今年初めて世界大会に参加する18歳の女性は、「すっきり分かりやすく、いい弾みがつきました」と語っていました。

揃いの平和Tシャツで県内リレー

岡山 笠岡市職労は、今年も揃いの「平和Tシャツ」を作り平和行進に参加します。笠岡市職労の平和Tシャツ作りは10年前からの伝統で、県内行進の11日間毎日このTシャツを着た組合員が組合旗をリレーします。

例年平和行進に参加する組合員は約100名で、今年も100名の参加をめざします。特に最終日の笠岡市役所から広島県に引き渡す26日には、揃いのTシャツを着た笠岡市職労の大量参加が期待されます。Tシャツは毎年150着作り、参加者に給付されます。(岡山県原水協通信No.7より転載)

代表派遣61人・学習・プレ企画

大阪 大阪原水協は、篠浦一朗理事長、玉垣齊事務局長を先頭に、地域・団体を訪問し、要請活動をすすめています。各団体・地域では、「すみやかな核兵器の廃絶のために」署名を中心に、パンフによる学習と代表派遣運動がすすめられています。

青年・学生の取り組みでは、ピースツアー実行委員会がすでに4回開かれ、玉垣事務局長を招いて学習会を開き、61人以上の代表派遣(被爆61年目にちなみ)とプレ企画、募金活動にとりにくむことにしています。高校生平和サークルは24日京橋駅で、「憲法9条」署名と「すみやか」署名を取り組みました。府高教は20歳台の青年代表5~6人を送り出したいとしています。(『原水協通信』7月号大阪版より転載)